

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2770701023		
法人名	有限会社すずらん		
事業所名	グループホームらん		
所在地	大阪府河内長野市原町3丁目5-21		
自己評価作成日	令和3年6月11日	評価結果市町村受理日	令和3年9月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 FGビル大阪 4階		
訪問調査日	令和3年7月19日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>①運営者は職員に余裕がなければ良い介護が出来ないとの考えを持ち、利用者全員の生活ペースに沿えるよう十分なスタッフを配置して、柔軟な姿勢で取り組んでいます。日中は3~6人体制で支援しております。</p> <p>②安らげる家として行動制限はしません。お互いに支えられ必要とし必要とされる関係作りをサポートしております。</p>
--

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>事業主体は、河内長野市に2か所のグループホームを運営している。自宅ではできていたことがグループホーム入所後にできなくならないよう、「入居者一人一人の人格を尊重し、家庭的な個別ケアを通じて入居者にごく当たり前の暮らしを続けて頂くことを共通目標とします。」を事業所の理念としている。職員が忙しくて気持ちに余裕が無いと良い介護が提供できないと考え、理念が実践されるよう、職員配置を手厚くしている。家族からは、「家庭的な雰囲気職員が家族のように接してくれる」「きめ細かいサービスに心がけてくれる」と良い評価が寄せられている。現在はコロナ禍のため中止になっているが、認知症に特化した取り組みにも積極的に、近隣事業所と一緒に認知症カフェの開催、認知症サポーター養成講座開催の支援、認知症啓発イベントへの参加を行っている。</p>
---

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入居後も家族や友人、馴染みの店、かかりつけ医などに関わり暮らすことを前提とし、理念である「ごく当たり前の生活」を大切に取り組んでいます。職員の研修課題にも掲げ理念を共有した。	施設に入所したから制限された生活を送らなくてはいけないというようなことがないよう、利用者が自宅で過ごしてきたように、自分がしたい時に食事や排泄などができる「当たり前の生活」となるよう、日々の介護に取り組んでいる。事業所の理念は、家族や訪問者にも目につくよう、玄関や事務所に掲示されている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的に買い物や外食などで近所のスーパーを利用し、自治会行事にも参加しています。定期的に保育園児との交流をしてふれあいを楽しんでいます。	自治会に加入し、近くにある寺への散策、近隣の保育園児との交流、だんじり祭りの時には休憩所として場所の提供を行い、地域の一員として日常的に交流をしていた。昨年からの新型コロナウイルスの影響で、現在は交流ができていない状況であるが、コロナ禍が収束したら以前のように交流ができるのを心待ちにしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症コーディネーターとして相談窓口となり、地域に向けて認知症カフェを運営して交流の機会を設けている。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームの活動内容を報告、また勉強会の開催、意見交換等でサービスの質の向上に努めています。	令和元年11月に、自治会長・市役所職員・地域包括支援センター職員・介護保険相談員・家族代表の参加を得て、運営推進会議を開催して以降、新旧の管理者間の引継ぎが不十分で、会議の開催ができていない。	管理者の交代、運営に関する引継ぎ事項の不十分、新型コロナウイルスの感染拡大など、開催ができなかった要因はあるが、今後は定期的に運営推進会議を開催し、事業所での活動内容や運営状況を報告し、参加者からの意見をサービスの向上に活かすことを望む。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	河内長野市ケアネットワーク会議に参加し連携を図るとともに、常時電話や訪問で気軽に相談できる関係です。	通所部会・ケアマネジャー部会・グループホーム部会・ケアネットワーク会議・キャラバンメイト連絡会など、市が開催する会議に参加しているが、最近ではリモートで開催されている。市立図書館から、利用者の好みそうな山の写真集や昔の懐かしい歌の本、DVDが定期的に届けられるので、利用者だけではなく職員も心待ちにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束、行動制限をしないケアに取り組んでいるが利用者様の状態により時間帯において施錠している日もある。	「身体拘束排除マニュアル」を作成し、職員は利用者の身体や行動の制限をすることの弊害について理解している。鍵をかけない介護に取り組んでいたが、利用者が居室の窓から屋外に出たことを機に、1階の居室の窓は半開で固定するようにした。日中は玄関を施錠せず、屋外に出たい時には、併設のデイサービスセンターの送迎車に同席して気分転換をしている。	事業所では利用者の行動の制限をしないようにしたり、できるだけ薬に頼らない介護を実践しているが、研修内容が不十分であると思われる。身体拘束について研修計画をしっかりと立案し、内容を深めることを期待する。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	余裕のあるケアが出来るような人員配置、コミュニケーション技術の習得、業務改善に取り組んでいます。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度については職員研修を開催し、ご家族には必要に応じて相談援助しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、解約については重要事項説明書や契約書に基づき説明しています。改定時は事前に説明し、個別に質問、相談に応じ同意書をいただいています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	内外の苦情窓口、及び匿名で記入できる「声のかけはし」を設置しています。また、家族の意見を反映し、職員全員でよりよい運営につなげるよう努めています。	家族からの意見や要望を聴取しやすいように、メモ用紙や筆記具を玄関に準備している。コロナ禍で面会ができないため、家族からの要望でリモート面会ができるよう準備を進めている。毎月利用者と職員で献立を考え、写真やイラスト入りの献立表を家族に送って好評を得ている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	常日頃から職員の意見や提案を直接聞いています。また日頃から職員の意見は管理者より運営者に伝えていきます。	管理者の交代は何度かあったが、子どものいる職員にとって働きやすい環境が整っていて、職員の定着率は良く勤続年数が長い。定例的なスタッフ会議は設定していないが、課題や疑問が生じた時にはその都度話し合っている。法人代表は月に何度か事業所を訪れ、年2回行われる職員面談では、職員の業績を適正に評価し、モチベーション向上に繋げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	働きやすい職場環境を整え、適材適所を考慮した業務担当で向上心、やりがいにつなげています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内外の研修には積極的に取り組み、実践の場で活かせるようにOJTによる実践研修を積んでいます。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市のグループホーム部会において、意見や情報交換、勉強会の開催、またイベントを通じて利用者の交流などに取り組んでいます。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の意向や思いを聴き取ることと、言葉で表現できない方の表情や様子に注意を払い、ご家族から情報提供をいただきます。時間をかけて1対1で関わるようにしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の心身状況や意向を聴き取り、特に入居後1カ月は頻回に連絡をとりながら、ご要望や不安に対応できるよう努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご相談を受ける際には、ご本人とご家族が求めているサービスは何かを考え、入居以外の選択肢をご提案することもあります。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護が必要であっても大切なひとりの人として、親しみと敬意をもって接しています。支え、支えられる大切な仲間として日常生活を送っています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の協力と信頼関係がなければ、ご本人を支えることはできないと考えています。常にご家族に相談しながら共にサポートすることを心がけています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会や外出は自由にでき、電話や手紙での交流も支援しています。家族旅行や、冠婚葬祭、お見舞い、お参りなどに出かけていらっしやいます。	以前は家族や知人の面会が頻繁にあり、外出もしていたが、昨年からのコロナ禍のためできなくなっている。事業所では毎日3名デイサービスの利用があり、一緒に季節の飾り物を作ったり話したりしながら、新たな関係性の構築に努めている。面会ができないため、家族と電話で話したり、利用者個々の写真を家族・兄弟に送っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員がすぐに介入せず、利用者同士のコミュニケーションから芽生えるものを大切に見守るようにしています。また思いを分かち合い励まさせる関係作りに努めています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	できる限りご本人への訪問を継続し、相談や支援に努めています。看取らせていただいたご家族との交流もあり、これまでの関係を大切にしています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	希望する暮らしを実現できるよう、ご本人とのコミュニケーションをはじめ、アンケート、本人会議、表情や行動、及びご家族から情報収集し検討、対応しています。	介護に対する法人の考えの基、手厚い人員配置が取られている。職員は常に利用者の傍に寄り添い話をする事で、一人ひとりの思いや意向の把握に努めている。「あれが食べたい、こんなことがしたい」など、毎日の生活の中で利用者の望む暮らしができるよう支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にはご本人、担当ケアマネージャーから状況を聴き、ご家族にはヒアリングと情報シートへの記入をお願いしています。入居後はご本人からお話を伺い、把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	業務中にも速やかな情報交換を行ない、把握に努めています。アセスメントは担当職員を中心に行ない、全員で共有していません。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	まずはご本人の意向を伺います。その上で日々の気づきをミーティングで話し合い、ご家族や医療職との連携により、ご本人の意向を中心に介護計画を作成しています。	介護計画は、長期目標1年・短期目標半年と設定し、家族からの要望や職員・医師・看護師の意見を参考にし、管理者・ケアマネジャー・担当職員によるサービス担当者会議を開いて作成している。利用者の状態の変化や新たな意向が追加された場合は、適宜見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録はご本人の言葉や表情、行動をそのまま記録し、職員全員で共有しています。この記録を基に介護計画の見直しに役立てています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	外出、外泊支援、通院時の付き添いや送迎サービスの他、共用型デイサービスや医療連携体制を活かし、可能な限りニーズに対応しています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会や地域の皆様のご協力を得て、地域行事への参加が継続されています。また美容院、喫茶店、朝市などを利用していますが、より幅広い協力が得られるよう努めています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している	入居時にかかりつけ医について意向をお伺いしています。また医療連携体制について説明したうえで、事前に希望を確認し適切な医療を受けられるよう支援しています。	利用者・家族の同意を得て、全員が協力医をかかりつけ医とし、内科は月2回、歯科・歯科衛生士は全員対象と希望者のみ(2名)に分けて週1回訪問診療を受けている。眼科・精神科・循環器科には家族同伴で定期的に受診し、利用者の状態に変化があれば職員が同行して受診している。ほぼ毎日鍼灸院の治療を受けている人も数名いる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	正看護師の職員を確保し常時相談できる体制であり、24時間体制で緊急時にも対応できます。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は頻回に訪問し、状況把握に努めるとともに、ご家族を中心に主治医、ホーム医療関係者と相談し、早期退院に向け努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用契約時に看取りに関する指針についても説明しており、重度化した場合は話し合いを重ね、同意書を作成しています。意向に沿った最期を迎えられるよう、チーム全員気持ちをひとつにして心をこめて取り組んでいます。	契約書中に「看取りの指針」を明記し、利用者・家族に説明して「看取り介護についての同意書」を得ている。利用者が重度化した時は、再度説明して同意書を得、「緊急時対応マニュアル」に沿って職員間で話し合っチームケアをしている。利用者・家族の希望があつて可能ならば、事業所で看取る方針で、過去に看取り経験がある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生時、急変時のマニュアルを作成し、職員教育をしています。応急手当や初期対応については外部研修にも参加し看護師の職員より常に情報を受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防の指導の下、日中・夜間を想定し。利用者も参加して避難訓練を行っています。	防災・地震対応・災害時避難の各マニュアルを作成し、利用者も参加して、日中の火災を想定した消火・避難訓練を年2回実施している。事業所の立地上、水害や津波の心配は無い。約半数の職員が近くに住み、有事にはすぐに駆け付けられる。水・スポーツドリンクを3日分を備蓄し、まとめ買いした食料1～2日分を災害時に使うことができる。	利用者9名中7名が居住する2階には、直接外に出られる非常階段が無く、1階居間への階段が非常口になっている。特に夜間の火災時の安全な避難が懸念され、消防署立会いの下で、夜間を想定した訓練を行うことを望む。また食料や災害用備品の充実、地域の協力体制の整備を望む。



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	敬意を持って誠実に向き合う事を基本とし、接遇意識の向上を常に目指しています。日頃より職員同士の確認も気をつけて行なっています。	事業所の理念に「入居者一人一人の人格を尊重し…」を謳い、意識して接している。排泄中はドアを閉め離れて介助する、入浴中は浴室の外で見守る、入室時はノックする、言葉は目上の人に対する丁寧語を遣う、などに留意している。不適切な対応があれば、事後にリーダーが注意して正している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者本人の権利を大切に、日常生活の小さな事柄についても自己決定を大切に接しています。遠慮せずに希望が表出できる様に働きかけてます。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者優先の日常を大切にしています。利用者のペースや思いを尊重し、職員の都合に誘導しないよう心がけています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好きな洋服や髪型を把握し、アクセサリを身につけたり、美容室へ出かけたりしています。お肌の手入れや、ネイル、ハンドマッサージなど楽しみとなる支援も行っています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	嗜好に合わせて調理法や食材の変更をしています。力を活かしながら準備や片付けも一緒に行ってます。メニューのリクエストも取り入れ、楽しいコミュニケーションの時間となっています。	調理士資格を持つ職員を中心に、調理当番が交代で利用者の好みを取り入れて献立し、近くのスーパーで買い出して調理し提供している。毎日が食事レクレーションのようで、利用者も皮むきや盆・食器・テーブル拭き、下膳に参加している。職員も利用者と会話しながら同じ物を一緒に摂っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の状態に合わせた食形態や適切な分量で提供し、健康状態により専門職の指導を受けて支援しています。摂取量は毎日記録し、医療職と情報共有しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後のケアを徹底し、誤嚥性肺炎の防止に努めています。提携歯科医院と連携し、定期的に往診による清潔保持、口腔ケア指導に力をいれています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	気持ち良く排泄するため、排泄パターンや習慣を把握し、排泄サインを見逃さないよう支援しています。	排泄は、定時の呼びかけと、利用者個々の排泄パターンやサインに注意して適時に声かけし誘導している。排泄に失敗した時は口に出さず、日中はトイレで処理している。夜間は1時間毎に見回り、個々に応じてトイレ誘導・パッド交換を行い、歩行が不安な人はポータブルトイレを使用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事や水分摂取量、食事内容を工夫し、体操やマッサージなどで便秘予防に努めています。医師の指示により薬が処方されている方もいます。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	気持ち良く入浴していただくため、それぞれの好みや習慣を把握し、希望のペースや心身のコンディションに合わせて支援しています。	週3回午前・午後の入浴を基本としているが、半数以上の利用者は毎日入浴している。入浴を嫌がる人は日や職員を替えて入浴してもらい、重度の人は2人で介助したり、シャワー浴に替えて清潔を保っている。時間をかけてゆっくり入浴し、柚子湯・菖蒲湯で季節感を味わってもらっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝と起床時間は個々のペースに合わせて支援しています。日中は希望や様子を見ながら休息していただき、夜間の安眠確保のため、活動的な日常を送っていただけるよう努めています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明、用量、副作用は日誌や薬説明書で全職員に周知し、症状の変化があれば速やかに申し送り、医療関係者に報告しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	力合わせた役割で感謝の気持ちを伝えています。また季節の行事、運動レク、創作活動、マッサージなどで楽しみや気分転換を支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的な散歩や買い物他、喫茶店や外食、美容院などに出掛けています。ご家族の協力により、お墓参りや自宅、家族の集まりに出かける方もいます。	コロナ禍で、個別の外出や遠出、家族との外出はできていないが、近くの寺まで散歩して季節の花を愛でたり、近くの桜を鑑賞したり、デイサービスセンターの送迎車に同席してドライブを楽しんでもらっている。駐車場のベンチで井戸端会議をしたり、プランターの花に水やりして外気に触れ、閉塞感をなくしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	持てる力に応じて所持、管理していただいています。管理が困難な方の場合、買い物時にレジで支払うことをサポートし、社会性の維持に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて電話や手紙の支援をしています。携帯電話を持っている利用者もあり、その管理もサポートしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日の当たりが良く、木の雰囲気を活かした明るさを大切にしています。アロマの香りや、季節の花、手作りの装飾物で生活感があります。不快な刺激がないよう、こまめに利用者の皆様に伺いながら配慮しています。	事業所から金剛山系を遠望でき、周囲の菜園の実りや事業所の花壇の花で季節を感じられる。リビング兼食堂には、利用者の書道作品や職員と共作の季節の飾り(今はひまわり)を掲示して、生活感・季節感を醸し出している。事業所内は木調で、清掃が行き届いて清潔で綺麗に保たれている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ハード面から十分な配慮はできませんが、ソファの配置や廊下の椅子や玄関にベンチを置いて空間作りをしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れた家具や装飾品を持ち込むことができます。また配置はご自宅の部屋と同じ配置にすることで、安心できる支援を行っています。	居室には、エアコン・カーテンと広い物入れが設置され、利用者はベッド・椅子・テーブル・家具・鏡台・テレビ・衣装ケースなどを自由に持ち込み、自作の書・絵画や家族写真などを飾って、居心地良く過ごせる空間となっている。毎月送られてくる元の会社のパンフレットを置いている人もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりのできることが自然に行えるよう、表示や声のかけ方に工夫しています。安全面については即時ミーティングで確認し、リスク回避に努めています。		